

イ

マ\*

イ

チ

イマデガワでソチバンの地域情報誌



No. 94

December  
2022

12  
月号

つなごう

# CONTENTS

## 02 特集「人と今出川」

02 ばく食堂&手作りパンの購買部

03 カメラのオオカワ

04 アマーク・ド・パラディ寒梅館

05 Laughter

06 千代飯店

07 ホテルな居酒屋

## 08 今出川人図鑑 マップ&店舗情報

## 10 連載「これがキョウジュの生きる道 2022」

## 12 出張版スポーツアトム

## 14 Campus Information (新町祭)

## 15 ボランティア支援室からのお知らせ

## 16 WOT・CT

## 17 フォトページ「今出川の端から端まで」

## 20 編集後記

## 21 読者プレゼント

今年も残りあとわずか。

この1年で出会った人々との繋がりを大切に。

今日はあの人に会いに行こう。



カメラのオオカワ  
大川 眞 さん



90年の歴史を持つ、京都一の老舗カメラ

出町商店街の一角にたたずむカメラのオオカワ。なんと創業から約90年続く老舗カメラ店だ。店主の大川さんいわく、京都で営業しているカメラ店の中では最も古い店だそう。創業者であるお祖父様から現在の店主の大川さんまで、3代にわたって続けられている。創業当初の昭和8年は、まだ誰もがカメラを持てる時代ではなかった。しかし、戦争が終わり人々の生活水準が上がるにつれカメラが徐々に普及。そして昭和中期〜後期、万博開催や、白黒写真からカラー写真への変遷など、カメラ文化の最盛期とも言える時代にお父様が家業を継ぐ。

そんな家庭で育った大川さんは「よく家業を継ぐのは嫌だと思わなかったのか?」などと聞かれるが、そんなことはなかった。自分の中で、自然とお店を継ぐものだと考えていた」という。ご自身は同志社大学商学部へ進学。その後はカメラ用品を扱う商社である株式会社浅沼商会でカメラのノウハウを学び、昭和56年、お店を継がれた。



そしてバブル経済が到来し、フィルムカメラの売り上げも栄華を極める。京都御所の一般公開で販売を行った際には、1週間で数百万売り上げたこともあったそう。しかしその後、バブルが崩壊。デジタルの時代に入ると、PCやプリンターなどのデジタル製品が業界を全て変えてしまったと大川さんは語る。まず、フィルムの需要が低迷した。そして大手家電量販店が出現する。さらには近年もコロナによってかなりの打撃を受けたそう。コロナ禍でイベントや晴れの日の撮影が減少したことにより、写真撮影の需要は皆無になった。現在も苦しい状況は続いている。そんな中で増してきたのがフィルム写真をデータにしたという声だ。しかし、需要が再熱しているにもかかわらず、京都でフィルム現像ができる店はほとんどない。そんな中、低価格で、さらには30分ほどの短時間でフィルムをデータにすることができるとは、大川さんいわく京都市内ではカメラのオオカワだけだそう。それに加え、カメラのオオカワでは豊富なフィルムを取り揃えている。

「お店を知った人たちの口コミで、たくさんの方が来てくれるようになった。若いお客さんも増えた」と大川さんは嬉しそうに話している。

写真文化で  
地域社会に奉仕を

また、大川さんはお店のことだけでなく、地域とのつながりも大切にされているそうだ。「ここ生まれでここ」で育った。地域で育ててもらった恩返しを」と、地域の神輿の会長を長年務められ、引退後も御霊神社の理事に就任されるなど、地元への愛情を持ち続けていらつしやる。大川さんの「写真文化で地域社会に貢献したい」という言葉には、長年この地でお店を続けられていくからこそ出せる温かさを感じられた。最後にお店への思いを伺うと、大川さんは「あと10年は現役で働きたい。健康である限りお店を続ける。まあ10年前も『あと10年』って言ってたけど!笑」と笑顔で話ってくださいました。



ばく食堂&手作りパンの購買部

〒602-8019  
京都市上京区室町通下長者町下ル近衛町 25 番地

土 (日不定休)

地下鉄「今出川」駅から徒歩 10 分

2020年の秋まで祇園の「ばくばくの花路」という飲食店で勤務されていた岡本夫妻。コロナ禍という飲食業界にとって未曾有の事態に直面するなか、岡本夫妻が決断した選択、それはパン屋さんの開業であった。店主の岡本一寿さんはスタジオジブリ作品『魔女の宅急便』で描かれる「グーチョキパン」に憧れてパン屋さんを経営する夢を以前からお

「人」に迫る  
2023年1月5日で開店2周年を迎える「ばく食堂&手作りパンの購買部」。ご夫婦が経営するこのお店では、ショーケースいっぱい並んだパンの購入はもちろんのこと、ランチタイムにはバラエティー豊かな定食もいただける。店内は約100年前に建てられた京町家をベースに、テーブルや椅子は店主こだわりのアンティーク家具を使用。さらにそこに店主が幼いころからの大ファンであるジブリグッズが数多く並ぶ。和風建築とアンティーク、そしてジブリが融合した店内からは、なんと大正ロマンの趣を感じる。近くに京都御所や京都府庁、幼稚園があることから幅広い世代のお客様から愛される食堂であり、パン屋さんだ。



「お店」に迫る

「ばくばく」に迫る  
持ちで、かつてのパンの製造経験を活かして今回の開業に至ったという。お店で提供される非常に豊富なラインナップは、店主の思い付きで生まれることが多く、時にはお客様からの要望で生まれるものもあるんだとか。

店名の「購買部」には並々ならぬ思いが込められている。店主の岡本一寿さんが幼い頃、パン屋は駄菓子屋のように小銭を握りしめて気軽に行ける場所だったという。しかし今ではお堅い店構えに、横文字の店名、そして何よりパンが高価なものになってきていると語る。そうしたなか岡本夫妻がこだわっているのは「毎日食べられる身近なパン屋さん」だ。そうした「身近さ」や「気軽さ」といった意味が、以前は多くの学校にあった「購買部」という表現に込められている。また祇園の飲食店で勤務されていた時との大きな違いは、お客様とのコミュニケーションやふれあいがあること。これがお店を運営されるなかでのやりがいの1つだという。店舗数や規模を拡大することよりも、この地で長くそして深く根付くようなお店になることを目指して「ばく食堂&手作りパンの購買部」は今日も開店する。



ばく食堂&手作りパンの購買部

岡本 一寿 さん  
岡本 恵美子 さん



毎日食べられる  
地域密着の食堂&購買部

# 店主の想いが詰まったお店



03  
ひとときまでがわ  
人と今出川

多くの同志生が知っているお店、「アマーク・ド・パラディ寒梅館」。クオリティの高い絶品ランチをいただけるお店だ。今回、店主の岩水宏展さんにお話を伺った。

アマーク・ド・パラディ寒梅館

## 岩水 宏展さん



■食事空間を楽しみたい・わくわくするものにも  
まずお店を営業する上での目標は何かと尋ねた。すると「楽しい食事の空間作り」と答えた岩水さん。岩水さんにとって嬉しいことは、学生が自分のお小遣いやバイト代からお金を払って食べに来ることができること。そんな学生たちのためにお店を「ひとりりで食べても誰かと食べても食事って楽しい・わくわくすることだと気づける空間」にしたいと思う。

### ■時代性を意識したメニューが売り!

次にお店のメニューについて尋ねてみた。アマーク・ド・パラディ寒梅館は数日おきにメニューを入れ替えており、毎日来店しても楽しめるお店となっている。従業員の中でもメニュー作成担当は決まっていられない。ざっくりとメニューを考えて従業員どうしてツツコミを入れてつ、ぱつと思いついたメニューも入れて完成させていくという。

またメニューを考える際に意識していることがあるという。それは「こだわり

ポイントを入れること」だそう。SNS発信の時代に「今日は生麦焼きです!」って発信しても見てくれる側は「はあそうですか」と流れてしまう。だからひと味違う生姜焼きをつくったりするなど、こだわりポイントを入れたいと思っています」と岩水さんは語った。

お店にはランチメニューのほかにパフェメニューもある。現在販売されているパフェはこれまでに期間限定で販売した人気のパフェである。これらのパフェを岩水さんは「レジエンドパフェ」と名付けていて、どのパフェにも多くのファンがいるそう。

このような独自性やお客さんを重視したメニューが、岩水さんがお店の良さだと考える、その時の人やトレンドに合わせた「時代に合った店」につながっていることがよくわかる。



多くのファンを虜にするパフェ

## 全ての人のため 誇りあるお店に

最後にお店の今後について尋ねた。岩水さんは「世代を超えて楽しんでもらえるお店にしたい」と答えた。実際にお店には学生のみならず近所の方や観光客、卒業生の方が多く来店するらしい。そのような幅の広いお客さんに「同志社にアマークがあって誇りに思う」と感じてもらいたいという。

今回お話を伺った中で、店主である岩水さんのお客さんを楽しませようという気持ちがよく伝わった。お客さん想いの岩水さんが店主を務める「アマーク・ド・パラディ寒梅館」にみなさんも来店してみてもどうだろうか。

アマーク・ド・パラディ寒梅館

〒602-0023  
京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町 103  
同志社大学寒梅館 1F



■偶然の出会い  
大学のゼミの活動で和歌山県にあるワイナリーに間違って来た矢野さん。その活動でワイナリーの社員だったタイ人の青年と出会い、偶然にもタイへ行くことが決まった。そこでコーヒー農場を見学したことがタイのコーヒーとの初めての出会いとなった。

■農園のチャリーさん  
当時タイのコーヒー豆は、産地としては未熟ではないかと周りから言われることが多かった。そこで実際に現地のコーヒーをさらに知るために、タイへと向かった。2人はタイでコーヒーをたくさん飲み歩き、やはり品質の未熟さを感じたという。

諦めかけていた時、ある街のコーヒーショップで驚くほど美味しいタイのコーヒーと出会う。2人はすぐにそこで売られていたコーヒー豆のラベルに書かれた農園と農園主の名前を頼りに、コーヒー豆を探した。農園を見つけるまで困難を極めたが、奇跡的に農園主のチャリーさんと出会うことになる。この出会いからチャリー農園との繋がりが生まれた。

### 店名にはあえて コーヒーと入れなかった



04  
ひとときまでがわ  
人と今出川

## 人と人が Laughterで 繋がる

Laughter  
矢野 龍平さん  
(写真向かって左)  
三輪 浩朔さん  
(写真向かって右)



## 小さな失敗を重ねた方がいい

■失敗の先に挽回がある  
Laughterのオープンには2020年。世間はコロナ禍で外出自粛が求められ、Laughterも店舗オープンのスケジュールや出店地の選定が一度全て白紙に。社会情勢が安定しない中、分析を重ね、出会った場所がこの西陣だった。「コロナ禍による不安もあったが、立ち止まるという選択はなかった」と語る。新型コロナウイルスがいつ終息するか分からない状況下で、経済活動が回復してから店を作っても埋もれるだけだと考えていた。他の人がやらないうちに自分たちはやってみようという想いだったという。

■今後の展望と新店舗について  
矢野さんはLaughterについて「常に色々な想像を膨らませている」と話す。そして行動を起こすときには、それを実現できるように準備をする。2人はこれまでどんな時でも目の前に現れた出来事に正面から向き合い、またその時々で出会う人々との繋がりを大切にしてきた。

11月にはLaughterの2号店となる新店舗がオープンする。場所は北大路橋を渡ってすぐの鴨川沿いだ。これまで以上に新しい人と出会う機会が増え、Laughterの輪が広がっていくことは間違いないだろう。

## 今想像できること ほとんどは実現できる

人と人が Laughter で繋がる。



Laughter

〒602-8498  
京都市上京区西熊町 289

不定休

市バス「乾隆校前」バス停から徒歩5分





## まずは 何でも やってみる

ホテルな居酒屋 店長  
**中原 渉**さん



### 何か新しいことを

■ **起業に挑戦する**  
千本鞍馬口に位置する、今年7月にオープンした飲食店「ホテルな居酒屋」。店主である、同志社大学社会学部1年生の中原渉さんにお話を伺った。  
高校時代の文化祭では、有志の出し物に積極的に参加する等「まずは何でもやってみよう!」というチャレンジ精神を持つ中原さん。起業についてお話を伺っていると、この飲食店事業は中原さんにとって2つ目だとか。1つ目の事業は、高校3年生の時に始めた、海外製品の輸入販売事業。その事業が確立され何か新しいことをやりたいと思った中原さんは、実店舗を持つことと信頼を得ることが次のステップだと考え「ホテルな居酒屋」を開いた。

### 影響力を 与えられるような存在

#### ■ 今後の目標

今後の目標について「大学4年生までに、何かの事業で2億ほどの年商を上げること。  
また、SNS等を通じて、人に何か影響力を与えられるインフルエンサーになること」と話す。  
挑戦し続ける起業家でありながら、同志社大学に通う学生でもある中原さんに会いに「ホテルな居酒屋」へ訪れてみてはいかがだろうか。



#### ホテルな居酒屋

〒602-8307  
京都市上京区問屋前町千本通芦山寺上ル5  
コーポ津弥鹿1階



市バス「千本鞍馬口」バス停から徒歩1分

## 千代飯店 店長 中川 多美子

同志社今出川キャンパスから徒歩15分、中立売通にある1軒の町中華、「千代飯店」。創業から45年間、この今出川を見守り続け、変わらない味を届ける優しい女将さんにお話を伺った。



■ **頑張る人と共に**  
「昔は今よりも多く学生さんがきていた」と語る女将さん。30年ほど前は現在の京都ブリイトンホテルがある場所に京都橘大学があり、学生のお客が多かったという。また今は住宅地になっている場所には多くの工場があり、当時は出前用にカブを2台使って出前を行っていたそうだ。

### どこか懐かしい

#### 「母の味」

■ **いつも変わらない味**  
仙台から遠く離れた京都で、どこか懐かしい中華料理が食べられる千代飯店。今でも同志社の卒業生は千代飯店の料理を味わうために遠くから来るのだという。仙台出身の筆者も、どこか懐かしさを感じる。そんな「千代飯店」で優しい女将さんの「母の味」是非足を運んでみてください。

#### ■ 開業

45年前に仙台から京都に嫁いできた女将さんは、当時は右も左も分からず、言葉も違うこの土地に非常に戸惑ったという。仙台では宴会を主軸としていた中華料理屋で働いていたが、仙台とは環境が違い土地勘もないこの場所でお店を開くのは非常に難しかったという。そのため京都出身の旦那さんの親戚のすすめで「出前」を主軸に、千代飯店は油小路中立売で産声をあげた。



#### ■ 留学生アルバイト

「昔はたくさん日本人のアルバイトがいたけど、今は中国人のアルバイトだけになっていく。まあ私中国語わからないんだけど」と笑いながら女将さんは話してくれた。お店の付近には日本語学校があり、そこに通う学生が毎年働きに来るので今は中国人しかいないという。以前働いていた元アルバイトの学生が、来年から千代飯店で働くのだと、女将さんは嬉しそうに話っていた。



#### 千代飯店

〒602-0923  
京都市上京区油小路通中立売上ル油橋詰町89-9



地下鉄「今出川」駅から徒歩12分

ひとといまでがわ  
人と今出川

ひとといまでがわ  
人と今出川

今日は誰に会いに行く？

# 今出川人図鑑

訪れた人を笑顔に

矢野 龍平さん

三輪 浩朔さん

▶ 本誌 P.5

Laughter



Have a nice day

若き経営者



中原 渉さん

▶ 本誌 P.7

ホテリアな居酒屋

千本通

寺之内通

今出川通

一条通

中立売通

大宮通

掘川通

室町通

烏丸通

寺町通

河原町通

同志社大学  
新町キャンパス

同志社大学  
今出川キャンパス

同志社女子大学

京都御所

本家  
お茶  
店



岩水 宏展さん

▶ 本誌 P.4

アマーク・パラディ 寒梅館

地域密着型のパン屋

岡本 一寿さん

恵美子さん

▶ 本誌 P.2

ばく食堂 & 手作りパンの購買部



カメラ店長



大川 真さん

▶ 本誌 P.3

カメラのオオカワ



中川 多美子さん

▶ 本誌 P.6

千代飯店

変わらない味を守る

同志社大学  
神学部神学研究科 教授

Moriyama Teruaki  
森山 央朗



# 道

これがキョウジュの生きみ  
2022

イマ会えるイチ番偉い人「大学キョウジュ」の人生を掘り下げる連載 2022 年度版最終回。  
「神様信じてないんですけど」と語る神学部 森山キョウジュの姿に迫る！



あ、神様信じてるわけは無いんですけどね。

キョウジュは確かに、神学部に所属し、イスラム教についての授業を行っている。が、自身はイスラム教徒というわけでは無い。というが、別どの神様も崇拝していない。また、キョウジュの生家も一般的な日本の家庭で、特にこれといった宗教に強く関わっているわけではなかったようだ。かなり驚くべき話のように思えるが、しかし納得のいかない話でもない。よくよく考えてみれば、客観的な立場で物事を分析し、時には常識や前提をも覆すことも視野に入れた研究という分野において、信仰というものは相反するものである。ただ勿論、筆者もそうだったが、神学部の教授が授業中にいきなり『いやまあ神様信じてないんですけど』と言いだしたらそれはびっくりしても仕方ないとは思っ。

だがさらに驚くべきなのは、キョウジュはイスラム教の宗教としての研究者というわけでもないということなのだ。本当は歴史学、中でも11世紀イスラム史、とくに社会文化系の部分を専門としており、ウラマーと呼ばれる人々の研究を主にしている。そんなキョウジュがイスラム教を教えることとなる神学部に入った経緯には、大学教授たちの厳しい就職活動が関係していた。

### にしても、歴史専攻だったのは意外過ぎる。

キョウジュはそもそも、歴史学の専攻である。高校生の頃に西アジア方面に興味を持ち、大学進学時に文学部や人文学部方面に進んで歴史を研究

### いやあ、大学教授はツライよ。

大学教授になるというのは、かなり大変なことである。非常勤講師の時代は、講義を掛け持ちして生活費を稼ぎ、それでも足りなければバイトなどをする。しかしそれだと自分の研究が出来ず、実績を残せないためますます就職が難しくなる……そういったサイクルがあるとのことだ。

だから意外と大学では、専門分野に近い知識の講義を受け持ちつつ、自分の本来の研究を行うというダブルワークを取っている教授が多い。そしてキョウジュもその一人なのだ。

キョウジュも大学院を修了した後、日本国際問題研究所の安定しない環境に不安であったため、同志社をはじめとしたいくつかの大学の公募に参加し、同志社の神学部に通ったそう。とはいえ、11世紀の西アジアには既



▲歴史学の面白さについて語るキョウジュ。人間の泥臭い部分をも受け入れる冷静さと美談の裏に埋もれた真実を追い求める熱意の両方が伝わってくる。

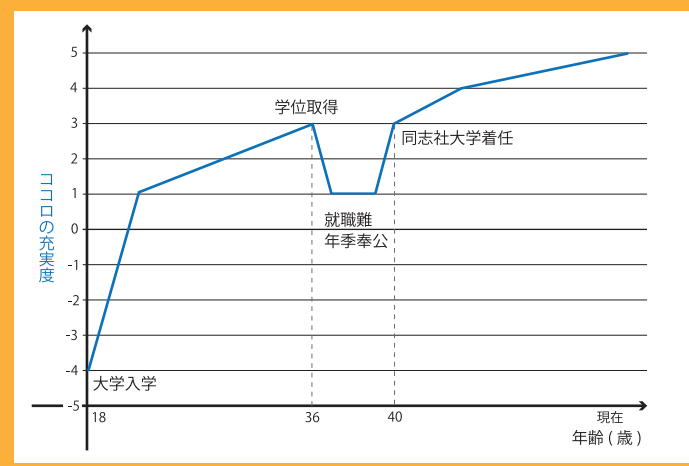
にイスラム教が浸透していたし、キョウジュの主な研究対象であるウラマーもイスラム教外れるとはいえず、さほど遠くない範囲だった。そんな経緯でキョウジュは神学部のイスラム教の担当となったが、大学教授の仕事自体は結構楽しんでるらしい。そうは言っても専門から外れている授業内容を用意するのは大変なこともあるが、時には新たな気づきを得られることもあるという。それに、人前で喋ることは嫌いではないから講義も嫌なわけでは無く、今の大学教授としての生活には満足しているとのことだ。

### そういうリアリスティックな性格……良いと思います。

歴史学というのは、史料に忠実であることと求められる学問である。証拠から論理的に推測出来る範囲を超えないということ。これが、歴史学という分野では大きな要になっている。そのことは、歴史学と時代小説のような文学を明確に分ける境目とも言えるかもしれない。

キョウジュにそんな歴史学がどのように面白いか尋ねたところ「ほんわかした理想が崩れるのが面白い」という答えが返ってきた。曰く、伝説や伝承の中で理想化や美化された歴史を見ることより、人間の利害関係だらけの泥臭い現実を追う方が好きであるとのことだ。例えばイスラム教でも、単純に教えに感化されたという事例より、民の統一に欠かせない共有された価値観としてイスラム教は用

森山キョウジュの人生の折れ線グラフ



したいという思いが強くなったらしい。ちなみに、この西アジアというのはアフガニスタン、イラン、アラビア半島、トルコ周辺を指し、歴代イスラム系の国家が多く勃興する舞台である。しかし本来的にはイスラム教が始まる7世紀よりもっと古い時代について勉強したかったそうなのだが、いかなせんその時代はいま既にある研究や資料の厚みがありなく、自分の能力での研究は厳しいと判断し、諦めたそう。また、西アジアの近代史については、どうにも食指が動かなかったのだという。そこで、西アジア史11世紀に決めたという過程があるそう。以来、今日まで一貫してその時代の研究を続けている。

いられたという事例の方が、実際は圧倒的であることが容易に推測されるだろう。そうした活動は、キョウジュの専門分野であるウラマー達の研究成果の中でも見て取れる。文化は時にプロパガンダであり、神様は時に政治的権威であり、美しき目標は時に利害の一致した取引なのである。その結果が歴史であって、美談や英雄にも裏がある。キョウジュは、その人間味のある裏を見ると安心すると言っていた。

信仰についてのことだが、キョウジュはこれらのことを終始あつかんと語った。しかし、そういったややドライで嘘のない部分も、キョウジュの魅力であったように感じる。世間的に良しとされる模範的な価値観を理想とするのは、それはそれで正しいことだろう。けれども「人間はあくまで利益を追求する生き物」ということを知り、そんな人間臭さありのまま受け入れる。このようなキョウジュの態度は、これもまた真理ではないだろうか。

# 硬式野球部



# 出張版

体育会の情報誌「同志社スポーツアトム」がイマ\*イチに出張掲載。  
体育会の活躍をイマ\*イチの読者にもお届けします。

10月23日、わかさスタジアム京都で関西学生野球連盟秋季リーグ戦第8節2回戦が行われた。3季ぶりに同立戦で白星を挙げて迎えた対立命大2回戦。多くの観客が青地組の最後を見届けるべくスタンドに詰めかけた。前日に続き、互いに点を取り合う接戦を繰り広げ、3-2で勝利。2016年以来となる勝ち点を獲得し、有終の美を飾った。



立命打線を抑えた高橋

初回、川久保が中前安打で出塁すると、盗塁と敵失で無死一、三塁のチャンスをつくる。ここで松井がレフトへ犠飛を放ち、先制点を奪った。2回に同点に追い付かれたが、5回には相手の暴投で勝ち越しに成功。1点のリードを保ち試合は終盤戦に突入した。

この試合最大の見せ場は8回、青地の第4打席。2死一塁の局面で打席に入り、5球目のチェンジアップを振り抜いた。打球は歓声とともにセンターの頭上を越える適時三塁打に。「野球人生最後の打席だったので感慨深いものがあった」（青地）。チームを率いてきた主将の一打が決勝点となり、貴重な3点目を加えた。

一方、先発の小倉は4回途中1失点でマウンドを降りると、高木、東山、真野とリレーし、立命大にリードを許さない。8回裏、1点差に詰め寄られ、なおも2死満塁でマウンドを託されたのは高橋。「自分の力を信じて投げ込んだ」と低めの真っ直ぐで見逃し三振を奪い、ピンチを脱出する。9回は最後の力を振り絞り、桃谷（立命大）が打ち上げた打球を青地がつかんで試合終了。高橋は喜びをかみ締め、天に両拳を突き上げた。



三塁ベース上で雄叫びを上げる青地

春の雪辱こそ果たしたが、11年ぶりの優勝をつかむことはかなわなかった青地組。「すごくいいチームができたが、それだけでは勝てない」と青地は言葉を残した。「強い同志社」の復活へ、来季こそ頂点の座だけを獲得に行く。

# 卓球部女子



球を返す三浦

10月20〜23日、YMITアリーナ（滋賀県）で行われた第88回全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）。シングルスでは三浦と本井がベスト8入りを果たした。

リーグ戦で春、秋連覇を果たした同志社。ついに、日本一への挑戦が始まった。大会2日目はダブルスとシングルス1回戦が行われた。ダブルスでは津田・三浦ペア、吉田・野上ペア、本井・竹村ペア、山本・原田ペアの4組が出場。シングルスとは違い、パートナーとの連携が重要になってくるダブルス。持ち前のチームワークで対戦校を圧倒し、3組が4回戦まで進出したが、惜しくもベスト8入りを逃す。

一方シングルスでは、津田が2回戦、竹村、原田、山本が3回戦で敗北。三浦、本井は第6、7ゲーム目までもつれこむ接戦を制し、5回戦へと駒を進めた。そして迎えた5回戦。三浦は序盤から相手に1、2ゲーム目を取られ窮地に追い込まれるも平常心を保ち、3ゲームを連続で奪取。第6ゲームを相手に取られるも、最終ゲームで粘り強さを発揮し勝利を収めた。続く6回戦では相手に、ベースを握られ、巻き返すことが出来ずにストレート負けを喫した。

また、本井は自身の特徴である粘り強さを活かして快勝。流れに乗ったまま6回戦へ進んだ。序盤から激しいボールの打ち合いとなるも、コート全体をうまく活用。相手を前後左右に動かし体力を奪っていく。

甘いボールはさすがスマッシュし点数を重ねていった。しかし、相手も必死に食らいつつ。一進一退の攻防が繰り広げられ、迎えた7ゲーム目。初めは相手にミス誘うプレーを連発し、リードしていたものの、相手の追いあげを止めることができず、最後はスマッシュを決められ敗北を喫した。

全国大会という大舞台で、2選手がベスト8入りを達成。この経験を糧にし、さらに成長を遂げるであろう彼女たちに期待が高まる。



ラリーに集中する本井





## ボランティア支援室からのお知らせ

### 同志社大学ボランティア支援室とは？



幅広い分野・種類のボランティア情報が集まる、ボランティア活動の相談窓口です。ボランティアに関する相談をしたり、アドバイスを受けたりできるほか、何がやりたいかわからない方でも、皆さんの考えや想いを聞きながらやってみたいと思えるプログラムを探すお手伝いをしています。  
また、ボランティア支援室主催ボランティアプログラムやセミナーもあり、初めての人でも安心してボランティアを始めることができます。  
気軽な気持ちで一度窓口にお越しください。

### ボランティアプログラムや講座を随時開催しています！

ボランティア支援室では、未経験の方でも気軽に参加できる一日体験ボランティアプログラムや既にボランティア活動に参加した経験を持つ先輩の話を気軽に聞ける場（ボラカフェ）を定期的に設けています。



### メールマガジンや各種SNSから最新情報をゲット！

オススメのボランティア情報やイベント情報を毎月15日に配信しています。ぜひメールマガジンに登録して、最新のボランティア情報をキャッチしてください！



Twitter



Facebook



Instagram



ボランティア HP



メールマガ登録

### ボランティア相談 受付中！

ボランティア支援室では、学生ボランティアの相談、また地域団体からのボランティア依頼を受け付けています！

#### \*学生のみさまへ

ボランティア支援室の窓口にて、現在募集中のボランティア一覧を見ることができます。  
また、コロナ禍でのボランティア活動について不安な方なども、まずはお気軽にお越しください。

#### \*学生ボランティアの依頼を希望される団体さまへ

初めて依頼される場合は、まずは団体登録が必要となります。  
詳しくはボランティア支援室HPをご覧ください、お電話にてお問い合わせください。

#### 【問い合わせ先】同志社大学ボランティア支援室

窓口開室時間 平日9:00~17:00 (11:30~12:30は閉室)、土日祝は閉室

- 今出川校地 寒梅館1階 [TEL]075-251-3236 [e-mail]ji-volun@mail.doshisha.ac.jp
- 京田辺校地 成心館1階 [TEL]0774-65-6777 [e-mail]jt-volun@mail.doshisha.ac.jp

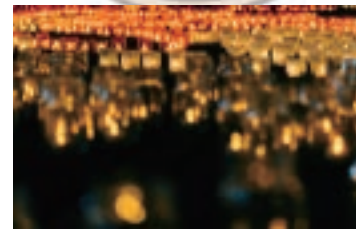
## Campus Information

# 第15回新町祭

presented by 同志社大学学生支援センター登録団体 SAP

## 新町祭とは？

今年で15回目を迎える関西最大級のキャンドルナイトイベントで、新町キャンパスが約1万本のキャンドルで彩られます。さらに今年の新町祭では、学内有志団体のパフォーマンスや模擬店など、同志社大学の学生はもちろんのこと、地域の皆さまもお楽しみいただけるイベントです。感染対策を実施したうえで、皆さまのご来場を心よりお待ちしております！



## 第15回新町祭

@同志社大学新町キャンパス

2022.12.10.sat

15:00~21:00

17:00 点灯

2022.12.11.sun

17:00~20:00

17:00 点灯

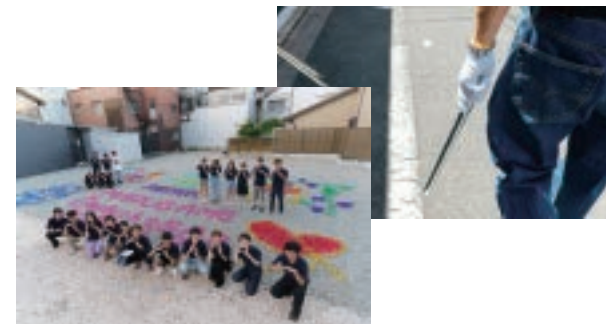
○入退場自由

○10日が雨天の場合は10日・11日共に中止、12月17日・18日に延期となります。

また、10日に実施し、11日のみ雨天の場合は中止致します。

## SAPとは？

新町キャンパスを拠点に Shinmachi Activate Project(通称SAP)として政策学部・社会学部の学生約140名で活動している同志社大学学生支援センター登録団体です。  
地域の施設や店舗の方々との関わりを通して新町キャンパスのみならず周辺地域の活性化を目標として活動しています。



## SAPのSNS



HP



Instagram



Twitter



YouTube

# 今出川の 端から端まで

編集部員の、今出川での習慣や思い出を再現したフォトページ。

Photographer: Rui Sasaki



Model: Ayuka Kakimoto  
Risa Tanaka  
Masayuki Yoshida



※撮影時のみマスクを外しております。また、感染対策を講じて撮影を実施しました。



開講期間中、寒梅館ハーディーホールでは、映画上映やコンサートなど様々なプログラムを開催します。

<https://student-support.doshisha.ac.jp/extra-program/wot.html>

・会場：寒梅館ハーディーホール（今出川校地 寒梅館地下1階）

・料金：一般有料

同志社大学学生・教職員は無料 \*同志社内諸学校を含みます（要学生証・教職員証）



開講期間中、寒梅館クローバーホールでは、映画・音楽・アートなど先鋭的なプログラムを開催します。

<https://student-support.doshisha.ac.jp/extra-program/clover.html>

・会場：寒梅館クローバーホール（今出川校地 寒梅館地下1階）

・料金：一般有料

同志社大学学生・教職員は無料 \*同志社内諸学校を含みます（要学生証・教職員証）

引き続き、課外プログラム WOT では一般の方を対象としたイベントの開催は中止いたします。  
平素より寒梅館ホールへお越しいただくことを楽しみにされている皆様には申し訳ございませんが、  
ご理解を賜れましたら幸いです。

## WOT/CT チャンネル

昨年度よりコロナ禍における新たな試みとして、映画など様々な文化を紹介するレクチャー等の配信企画「WOT/CT チャンネル」を立ち上げました。

学生支援センター YouTube サイトにて配信中です。

ぜひお楽しみください。

番組最新情報、  
その他配信番組一覧はこちら！



04



緑に囲まれた「SASAYAORI+」のメニューたて。  
そして優柔不断な私たち。

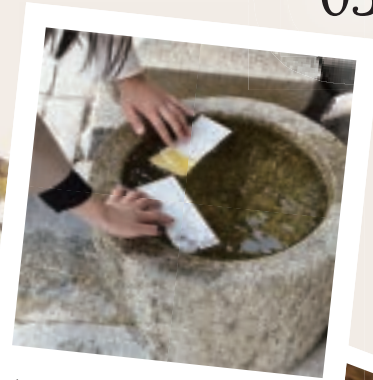


どら焼きとグリーンティーを片手に。  
テイクアウトして手軽にピクニック。



京都御所の各所にあるベンチでひと休み。  
一人でのんびりするのもいい。

03



水占みくじを体験。  
風情があって特別な気分。



通りがかったフリーマーケットをぶらり。  
一つ一つこだわった手作り雑貨に目が釘付け。



境内には何頭ものなで牛が。  
願いが叶いますように。

CONTENTS

- 01 キャンパスの芝生でおしゃべり
- 02 お得な買い物をした堀川商店街
- 03 初詣の屋台にときめいた北野天満宮
- 04 御所で紅葉を眺めながらピクニック
- 05 パン屋さん巡りをした後、鴨川で食べ比べ
- 06 授業終わりに出町座で映画鑑賞

05



パン屋で買ったパンを鴨川デルタでぱくり。  
インスタ映えも忘れずに。



紅葉と山と空と鴨川。  
橋から見える壮大な景色は息を呑むほど。

06



出町座の入口には様々な映画のポスターが。  
深い赤とタイルの外観がレトロで素敵。



原作から好きだった作品のポップが...!  
せっかくだから記念写真を。

02



いつか来ようと思っていたチョコレート屋さん。  
ちょっと背伸びしたお買い物。



趣のある「堀川商店街」の入口。  
老舗から新しいお店までよりどりみどり。

01

今年度に取材させていただいた場所もいつか私たちの思い出の地に...

今出川の端から端まで

# 読者プレゼント

12月号の感想を送っていただいた読者の皆様から抽選で3名様に、「ばく食堂&手作りパンの購買部」様のマグカップをプレゼントします！

メールアドレス imaichidoshisha@gmail.com に

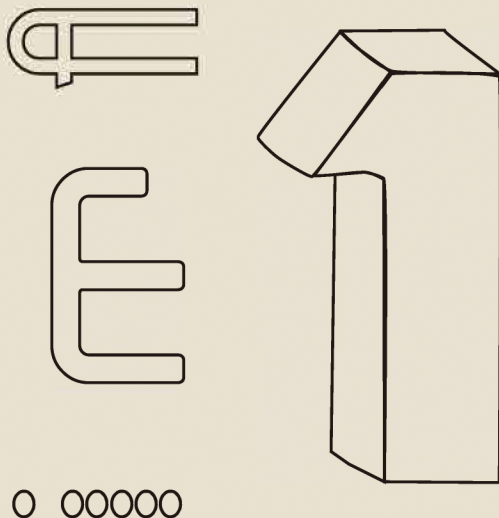
1. お名前
  2. ご住所・郵便番号
  3. 年齢（任意）
  4. イマ\*イチ 12月号を入手された場所
  5. イマ\*イチ 12月号で1番良かったページとその理由
  6. イマ\*イチ 12月号全体を通してのご感想（任意）
- を明記の上、お送りください。

締め切り：2022年12月31日まで



個人情報の二次使用はいたしません。

当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。



イマデガワでイチパンの地域情報誌

# イマ\*イチ

発行日：2022年12月1日

発行：同志社大学 学生支援機構

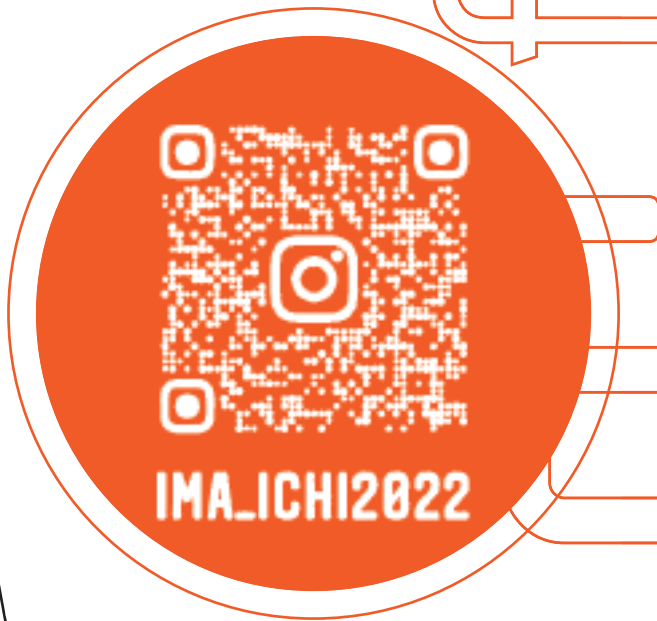
今出川校地学生支援課

075-251-3270

編集：同志社大学広告研究会 add's

印刷：アインズ株式会社

これまでのタイプ



○ ○○○○○○

